

# マッスルランキング

18 成人向け

忍。

その職に必要な要素とは何か。

体力と知力である。

しかし体力と知力と言っても様々なものがある。

知力に例えれば将棋で何十手先を読む推理力。

対峙した相手が何を考えているか推し量る洞察力。

同等の能力か？と言われればイエスでもありノーでもあるだろう。少なくとも場と機会とタイミングに左右される限りは是だけではない。

もちろん体力で言うならば腕力脚力瞬発力にスタミナ、と種々の場面において必要とされる能力は違うだろう。

そして忍であるならば、しかも五大隠れ里のひとつ木の葉の忍者であるならばあらゆる能力にも秀でていてしかり。個性同様自分からの『体力には自信あります！』なんて言ううさんくさい申告では意味がないのだ。他と比べて推し量ることが何より重要である。また絶対的にも相対的にも己の力量を理解分析することが必要なのだ。

切磋琢磨、ランキング、社会評価。言い換えればどんな風にも言えるけど、どれも正しい。

「……というわけできあ！火影様に開会のお言葉を頂きましょう！」

「第13回『木の葉・ザ・マッスルランキング』を開催する！」

うわあああああつっ!!

その日は木の葉中に雄叫びが木霊していた。

空は快晴だった。気温も湿度も運動日和だった。

行楽に出かけるにはもってこいのこの良き日。このシーズン体育の日や運動会があるのは頷ける、確かに相応しい日和。そして観客も家族総出、お弁当にビール果てはスタンドにバーベキューセットまで持ち込んでのお花見状態だ。

きゃーきゃーわいわいわいざわざわと。そんなギャラリィに囲まれて、

「あ〜……」

カカシは天を仰いだ。

秋晴れの空が気分が良くてじゃない。憂鬱な気分だったから。

花火が上がり出店が軒を並べ……って運動会ですか？何よこのお祭り騒ぎ、何なのよ。

はい、木の葉の民にとっては今日と言う日はまさに運動会、一大イベントのひとつなんです。

ぴーかん晴れ。雲ひとつない。

そんな環境の中でまさに始まるうとして今日という日

は木の葉の忍の質の高さを一般人にも来客にも分かりやすくアピールするにふさわしい。

なんとつて普段はそう行き会わない忍達の実力を間近で見たり体感したりすることができ、触れ合うことができるのだ。もちろん握手会にサイン会一般市民参加コーナーもある。また経済効果も抜群だ。里外からの観光客誘致にも一役買っている。大多数の人間にとつては御の字の企画だろう。と、ほくほく顔の上層部と高テンションの場内の雰囲気反比例して、カカシの気分は急降下だった。最低だった。何が憂鬱かって？

そりゃまあ色々だった。見せ物状態もパンダ状態もだ。大体忍なんだから忍んでナンボだつっの。と言つても、

「お前は顔隠し系なんだからいいではないか。てかむしろミステリアスさを強調すれば良い！」  
とか何とか。おまけに顔バレしてもこんだけ強いです木の葉、なPRにもいいらしい。

恐るべし木の葉。イメージアップにも最適の一日だ、なんて喜んでる場合じゃない。  
だったらもつとまともな外交や交流とかかすればいいじゃん、何も運動会なんかしなくていいじゃん。なんて真つ当な意見は上には届かなかつた。

おまけにギャラも今日はない。特別手当もない。あるのは参加賞だけだ。ちなみに12歳以下には必ず鉛筆が配られる、木の葉マーク入りの。おまけにこの格好。

「はあ……」  
今日用の服に身を包みながら心からため息をついた。通常の忍服でも暗部服でもなく、鉢金や鎖帷子なんて頭部を狙われたり生命の危険が及びそうな時には役にたつても今日この日にはとりたてて着用不認可。

「頼りにすべきは己の肉体！スピード！技だけじゃー！」  
三代目の言い様はまさにその通りなだけどさあ。

この体操服にびつちびちの膝までトレーニングウェア、その下にアンダーウェアつて見様によつちや変態だ。白い鉢巻きなんか絶対要らないよね。とは心から思った。挙げ句この格好で整列入場行進選手宣誓まで。  
(やつてらんねー……)

今のうち逃げようかな。腹でも壊したことにして。とふいにそんな考えも頭をよぎつた。

こないない日は昼寝するなり犬を洗うなりしたいものだ。たまつてる洗濯や掃除だつてしたいに決まつてる。

………脱走。閃いた。  
(うんそつしよう)

それがいい。よし決定。  
なんて勝手に決めてこそこそと逃走しようとしたところで、  
だつた。

「カカシ先生！」  
どっくん、心臓が跳ねた。

「おはようございます。今日はいいよいですよ」  
いくらセンスに物申したくても、意義を唱えたくても例外は、あつた。好きなヒトの生足はまた別問題なんだから。

そう、好きな相手。惚れた人。  
「お、おはようございますっ！」

そして俺マスクマンで良かった。なんてこういう時ほど実感することはない。  
(ああっ………)

青空をバックに輝く歯と爽やかな笑顔が似合う。煌めく眼と髪がステキ過ぎる愛しい人。

そう、初めて会つた時から気になつた。  
二回目に会つた時にはもう恋心を自覚していた。そんな相手、好きな人。  
イルカ先生だ。

「良かったですね、いいお天気になつて」  
そしてただいま絶賛片思い進行形。  
会えた日は嬉しくて嬉しくて夜も眠れず飯も食えず。

ちよつと会話が交われば激しい呼吸不全及び発汗作用のため小用の回数も減り。  
報告書の受け渡しにちよんと触れた指先をもつたいたなくて、トイレの後も手を洗わず醤油の汚れも落とそうとはせずその内たまらなくなつて指先をしゃぶつてはうっかり匂いを嗅いでしまい「俺何やつてんだろう……」なんて膝を抱えたことも数知れなかつた。

飲み友達に昇格後には酔いつぶれた先生をうちまで運んだのはいいものの「がまんがまんがまん襲つちやダメだ襲つちやダメだ襲」と一晩中冷水シャワーを浴びていたこともはつきり覚えてる。

どこが好きか？そんなの分からない。  
分からないけど全部。このヒトを構成してる全て、細胞の一片抜け毛一本、メラニン色素のかけらひとつ取つても多分『好きだー』つて言えるんだ。  
笑顔。声。性格。

肌の色も歩き方も視線も、例えば会話ひとつやりとりひとつつても、どれもこれもが自分の心にきゅんきゅんまっすぐ突き刺さるどストリート。しかも時速180km。

「カカシ先生？」  
だけじゃない。  
傾げた小首の普段は隠れた首筋の後れ毛とか。